

X 第八回東方學術賞

拝啓

晩秋の候 貴台におかれましては御清祥のことと御慶び申し上げます
さて 財団法人 東方研究会 におきましては本年度もインド大使館と共
同主催にて 學術及び文化活動の秀れた業績を世に広く顕彰することに致し
ました

先般来 選考委員会において慎重審議の結果 第八回東方學術賞受賞者は

學術賞として ランベルト・シュミットハウゼン殿 (ハンブルグ大学教授)
(Prof. Lambert Schmithausen)

學術賞として 今西順吉殿 (北海道大学教授)

の業績を讃えることに決定しましたので 左記の如く 顕彰式を行ないます

一、場所 インド大使館

東京都千代田区九段南二丁目二ノ十一(千鳥ヶ淵)

一、日時 平成四年十二月七日(月曜日)午後三時

つきましては 御多用中恐縮ながら御来駕の榮にあすかりたく ここに
御案内申し上げます 敬具

平成四年十一月 吉辰

財団法人 東方研究会

理事 長 中 村 元

各位

追伸 式典終了後はリフレッシュメントでおくつろぎ下さいとの伝言が大使館から
ありました 出席の御連絡は東方研究会へ十一月三十日(月)までに御知らせ
頂ければ幸甚に存じます(電話〇三―三二五―一四〇八二)御来駕の際には御
手数ながら受付に本書状封筒を御示し下さいませよう御願い申し上げます



भारत का राजदूतावास, टोकियो

Embassy of India,
2-11, Kudan-Minami 2-chome,
Chiyoda-ku, TOKYO 102
Telex: 232488GINIEMB J
Phone: 03 (262) 2391
Fax: 03 (234) 1866

EMBASSY OF INDIA

AND

THE EASTERN INSTITUTE, INC.

cordially invite you
to the Award Presentation Ceremony of
the Eastern Study Prize for 1992

to

Prof. Lambert Schmithausen
University of Hamburg
(Academic Achievement Award)

Prof. Junkichi Imanishi
Hokkaido University
(Academic Achievement Award)

for their outstanding scholarly achievement
on Monday, 7th December, 1992
at 3.00 p.m.
at the
Chancery of the Embassy of India
(2-11, Kudan Minami 2-chome, Tokyo)

R.S.V.P.

Eastern Institute, Inc.

Tel. 03-3251-4081

中村理事長挨拶

主催者を代表しまして、一言御挨拶申し上げます。

このたびインド大使館の御協力を得まして、共同でここに第八回東方学術賞の贈呈式を開くことができますことは、われわれの最も光栄とするところであります。本日は、朝野各方面から御多忙を御繰り合わせ、わざわざこの会場まで御来駕御臨席賜りましたことを、ここに厚く御礼申し上げます。

財団法人東方研究会は「東洋思想の研究及びその成果の普及」ということを目的としている研究会でありまして、昭和四十五年(1970)十一月十二日付けをもって財団法人の設立許可を受けましたが、すでに二十二周年に相当致します。その間、諸般の活動を続けて参りました。まことに微々たる団体ではありますが全国にわたる各方面の同志、篤志家の御協力によりまして次第に発展して参りました。

そしてさらに斯学の発展を計るために真に学問的意義があり、世の人々を益する恒久的な事業を遂行したいとかねがね念願しておりましたが、その一環としてインド大使館と共同主催にて『東方学術賞』を設けて、学者のすぐれた業績を世にひろく顕彰することに努めて参りました。そして本年度もインド大使館と共同主催にて、学者の優れた業績を世にひろく顕彰することに致しました。

それにつきましては、インド大使館のプラカシ・シャー (His Excellency Ambassador Prakash Shah) 大使をはじめ、館員の方々の心からなる御協賛を得まして、順調に進めることができました。よって先般来諸方面より多数の識者のご意見を徴し、さらに選考委員会を設けて慎重に審議を続けて参りました。選考委員は、奥田清明殿、川崎信定殿、勝又俊教殿、玉城康四郎殿、奈良康明殿、前田専学殿、水野弘元殿、山口恵照殿、山口瑞鳳殿と小生と計十人に御依頼申し上げました。その結果次の方々の業績をたたえることに致し、本日このように顕彰式を開催することになりました。

これより第八回東方学術賞の受賞者の方々のお一人お一人の功績の顕彰に移ります。

本年度も、昨年度の場合に引続き、外国人学者に東方学術賞を贈呈することになりました。本年、「東方学術賞」(“Academic Achievement Award”)を受賞されますのは、ドイツ・ハンブルグ大学教授、ランベルト・シュミットハウゼン博士でございます。シュミットハウゼン博士は、一九三九年にドイツのケルンでお生まれになりました。一九五八年から六一年にかけてボン大学・ケルン大学でパウエル・ハツカー教授(Prof. Paul Hacker)やハンス・ロツシュ教授(Prof. Hans Lusch)などの下で、インド学、哲学、そしてアラビア語などを修められ、その後、六一年から六三年にかけて、ウイーン大学で、高名なフラウワルナー教授(Prof. E. Frauwallner)などに師事し、六三年に博士号を授与されました。次いで、ミュンスター大学(University of Munster)の講師(Dozent)・助教授を経て、一九七三年にハンブルグ大学の教授に就任され、インド学・仏教学の分野における研究のかたわら、学生・研究者の指導育成にあたられております。また、博士は、一九七七年に Joachim Jugius - Gesellschaft der Wissenschaften のメンバーとなられ、現在に至っております。

シュミットハウゼン博士の優れた業績は、お配り致しました「主要著作目録」で明かでございますが、博士は、ウイーン大学に提出された博士論文を増補し、「主要著作目録」の【MONOGRAPHS】の①に記されています。Man dana-misra's Vibhramavivekah, mit einer Studie zu Entwicklung der

indischen Irrtumslehre として出版されております。これは、マンダナシシユラの Vibhramaviveka を校訂し綿密な注解を施した翻訳と研究で、五世紀から十世紀までのインド哲学の体系における、「誤った感覚知覚(erro-neous sense perception)」と「夢体験(dream experience)」の理論の歴史的展開を詳査し、これらの理論が、他の学派や思想家の影響を色濃く受けていたことを指摘されました。

また、シュミットハウゼン博士は、仏教の唯識思想の研究にも優れた業績を数多く残されております。Der Nirvana-Abschnitt in der Viniscayasamgrahani der Yogacarabhumih (主要著作目録【MONO-GRAPHS】の②)では、Yogacarabhumih の Viniscayasamgrahani の中のニルヴァーナの章を校訂し、その翻訳に綿密な注解をつけ、序章の研究の中ではその書の構成や特異な思想的立場を明かにし、注解では、解脱に至るプロセスにおける人格の根底からの再構成である「転依」(asraya-parivrtti)の思想などの重要な問題に考察を加えられております。その他に、初期のヨーガ行派において、如何に、心と心の働きがすべて滅し尽くした境地である niroda-

samapatiti (滅定)に関連する諸問題の解決の為に、「阿頼耶識」(alayavijnana)と云ふ一種の潜在意識を考え

ねばならなかったのか、そして、その「阿頼耶識」の観念がどのように初期ヨーガ行派で発展させられていったのか、を考察した

Alayavijñāna: On the Origin and Early Development of a Central Concept of Yogacara Philosophy (2 vols.) [主要著作目録 [MONOGRAPHS] ②] などがあります。

近年は、仏教の自然観などに関する論考も多く、初期の仏教経典では、植物にも sentience (心の働き) を認め、心の働きのある状態とない状態の境界的位置に位置づけられていた植物は、後に実践上の都合から、その sentience を無視されるようになったことを述べた『The Problem of the Sentience of Plants in Early Buddhism』[主要著作目録 [MONOGRAPHS] ④] や、『Buddhism and Nature』[主要著作目録 [MONOGRAPHS] ⑤] などがございます。融和を宗とする仏教の自然観を積極的に社会に活かす活動をさせていただきます。

同氏の、インド哲学・唯識思想における学問的業績を評価して、財団法人東方研究会は「東方学術賞」をお贈りしたいと存じます。

大学の学期の途中ということで、「一日でもハンブルグを出ることはできない」、ということで、シユミットハウゼン博士はあいにく本日の顕彰式にはご参加頂けませんでした。しかし、博士にかわって、ドイツ学術交流会東京事務所長のケオルグ・ノイマン先生が賞をお受け下さいます。ここに、ご紹介申し上げます。

この度「東方学術賞」を受けられます今西順吉教授は、東京大学印度哲学科及び大学院において印度哲学・仏教学を修められた後、一九六四年から六六年まで西ドイツのゲッティンゲン大学に留学され、ヴァルトシユミット教授についてさらにインド学仏教学の研究を深められました。

帰国後、北海道大学文学部専任講師・助教授を経て一九八七年から同大学教授としてインド学・仏教学を学ぶ多くの学生の指導育成にあたられて、現在に至っております。

今西教授の専門は、とくにインド六派哲学中のサーンキヤ哲学であり、マイダヴァ著『サルヴァダルシヤナ・サンクラハ』(全哲学綱要)第十四章「サーンキヤ哲学」の文献学的研究やナイガールジュナ(龍樹)・アーリヤデーヴァ(提婆)・ヴァス(婆藪)によって言及されたサーンキヤ思想を考察した、すぐれた研究があります。さらに、説一切有部の七つの論書の一つ、『品類足論』の成立に関わる詳細な研究、また、「我と無我」及び

「無我説における我の概念」と題する論文においては、仏教の無我説とウバニシャッド哲学のアイトマン説との関係を明らかにしています。

さらに今西教授には筑摩書房から刊行された『漱石文学の思想』第一部自己形成の苦悩、第二部自己本位の文学という研究があります。今西教授は、この両大著において、夏目漱石の小説『草枕』の思想内容および作品構成には『サーンキヤ・カリーリカー』の影響が認められることを実証しました。従来の漱石研究には、このような比較思想的な研究、すなわちインド哲学をとりわけサーンキヤ哲学からのアプローチは皆無でありました。さらに、漱石が東京大学の学生時代に井上哲次郎教授の「印度哲学史」の講義を聴講していたこと、および漱石の親友たちがサーンキヤ哲学についての論文を出版していたことを明らかにしたことも今西教授の貢献であります。よって、同氏の学問的功績を高く評価し、財団法人東方研究会は「東方学術賞」をお贈り致します。

以上の次第でありますので、諸方面の御賛同をお願い申し上げます。

なお副賞として加えるために、インド大使館からいろいろな記念品が寄贈されました。また、株式会社名著普及会から E. Hiltzsch 編著 *Inscriptions of Asoka* (New Edition) が、東京書籍株式会社からは奈良康明博士編著『仏教名言辞典』、株式会社春秋社からは中村元著『原始仏教の成立』が贈呈されました。

開催につきましては、インド大使館の方々の特別な御協賛にあずかりましたことを深く感謝しております。そのお力によりまして微力な我々の志願がこのように見事に実ったのであります。おかげさまで諸方面より祝電・御祝いなどを頂きましてありがたく存じます。

式のあとのパーティーは、インド大使館の御好意によるものであります。また、報道関係はじめ諸方面の方々に御協力頂きましたことを大いに感謝致しております。そして御集まりの皆様は心から厚く御礼申し上げます。

ただ何分にも、我々が微力で手不足でありますために、何かと不行届きの点が多々ありましたことは、まことに申し訳なく存じますが、この点は平に御寛恕の程お願い申し上げます。そして、将来にわたって一段と活動を発展させたいと存じておりますので、今後ともよろしく御指導御後援の程願ひ上げます。

以上、甚だ蕪辞を連ねましたが、これを以て御挨拶のことばとさせていただきます。

THE EASTERN STUDY PRIZE

ACADEMIC ACHIEVEMENT AWARD

PROF. LAMBERT SCHMITHAUSEN
(UNIVERSITY OF HAMBURG)

Born in November 17, 1939 at Cologne in Germany, as a son to Lambert Schmithausen, a sculptor, and Martha Schmithausen. He studied Indology, Philosophy and Arabian at the Universities of Bonn and Cologne from 1958 to 1961 (under Prof. Paul Hacker, Hans Losch and et al.) and at the University of Vienna from 1961 to 1963 (under Prof. Frauwallner et al.). Received Dr.phil. from Vienna in 1963. Venia legendi for Indology Münster in 1966. He served the University of Münster as a "Dozent"(Lecturer) from 1966 to 1970, and as an Associate Professor for Indology from 1970 to 1973. Since 1973, he is serving the University of Hamburg as a Full Professor for Indian Buddhist Studies. He is a member of the Joachim Jungius-Gesellschaft der Wissenschaften since 1977.

For lecturing, he has traveled extensively. He has been to Japan in two occasions: January/April 1979 and September/October 1990. September/October 1989, he was a Fellow of the Australian National University, Canberra,

He was married to Helga Schmithausen (b.Sahl) in 1960. He is blessed with two children: Gregor(b. 1964) and Feliciatas (b. 1967)

東方学術賞

今西順吉教授

- 1935年 3月3日生
- 1957年 東京大学文学部卒業
- 1959年 東京大学大学院修士課程修了
- 1964年 西ドイツ・ゲッティンゲン大学留学
- 1966年 東京大学大学院博士課程修了
- 1966年 北海道大学文学部専任講師
- 1968年 北海道大学文学部助教授
- 1987年 北海道大学文学部教授、現在に至る